

報告事項 2

経済振興委員会報告資料

アイランドシティはばたき公園の
取り組み状況について

令和4年9月
港湾空港局

目次

1. 背景	_____	P 1
2. 主な経緯	_____	P 1
3. 基本計画（平成27年度策定）の概要	_____	P 1
(1) 基本コンセプト		
(2) 目指す姿（目標像）		
(3) ゾーニング（整備イメージ）		
(4) 実現に向けた3つの取組		
4. 3つの取組の実施状況	_____	P 2
(1) 段階的な整備・供用の実施状況		
(2) 自然の成長を活かす管理手法の導入の実施状況		
(3) みんなで関わる仕組みづくりの実施状況		
5. 管理運営方法	_____	P 5
6. 今後のスケジュール等	_____	P 5

1. 背景

- 福岡市は、博多湾東部におけるアイランドシティ周辺の海域・海岸域（約550ha）を「エコパークゾーン」と位置づけ、自然環境の保全・創造、地域生活環境向上に向けて様々な施策を展開している。
- エコパークゾーンは160万人都市の都心近くにありながら、豊かな自然環境が存在する貴重な空間であり、アイランドシティはばたき公園（約12ha）は、市民と自然環境との接点として、人と自然の共生を象徴する空間として整備を行う。



2. 主な経緯

年度	内容
平成24～25年度	野鳥公園ラウンジカフェ【環境局】 ・全8回開催、延べ321人の方が参加 ・市民との対話により「基本コンセプト」や「活動プラン」をまとめる
平成25～26年度	野鳥公園整備に関する検討委員会 ・全5回開催 ・「基本コンセプト」や「活動プラン」を実現するための「基本計画（整備プラン）」等について有識者等より専門的見地からの意見・助言を得る
平成27年度	基本計画（整備プラン）策定 ・アイランドシティはばたき公園の「基本コンセプト」、「目指す姿（目標像）」、「ゾーニング」、「実現に向けて」等を策定

3. 基本計画（平成27年度策定）の概要

(1) 基本コンセプト

成長する「アイランドシティはばたき公園」 ～人と自然が共に成長し続けるために～

- 公園づくりや環境学習に関わっていく中で、『人』も成長していく

(2) 目指す姿（目標像）

<p>【環境の保全・創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡り鳥が利用する場 ・エコパークゾーンの豊かな自然を実感できる場 	<p>【市民の交流・学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に自然とふれあえる場 ・環境学習の拠点 	<p>【様々な活動の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体が関わる場
--	---	---

(3) ゾーニング（整備イメージ）



アイランドシティはばたき公園の取り組み状況について

(4) 実現に向けた3つの取組

① 段階的な整備・供用

- 最初に着手する湿地を中心とした「自然の成長を学ぶゾーン」については、はじめから全てをつくり込まず、自然の成長を活かしながら整備を行うこととしており、全体の整備期間は概ね10年間とし、ゾーン毎に段階的に整備・供用を進める。

② 自然の成長を活かす管理手法の導入

- 湿地エリアについては、野鳥の飛来状況や自然の成長等をモニタリングし、有識者等から助言を受けながら整備効果の検証を行い、管理方法の見直しや、必要に応じて施設の改良を行う。

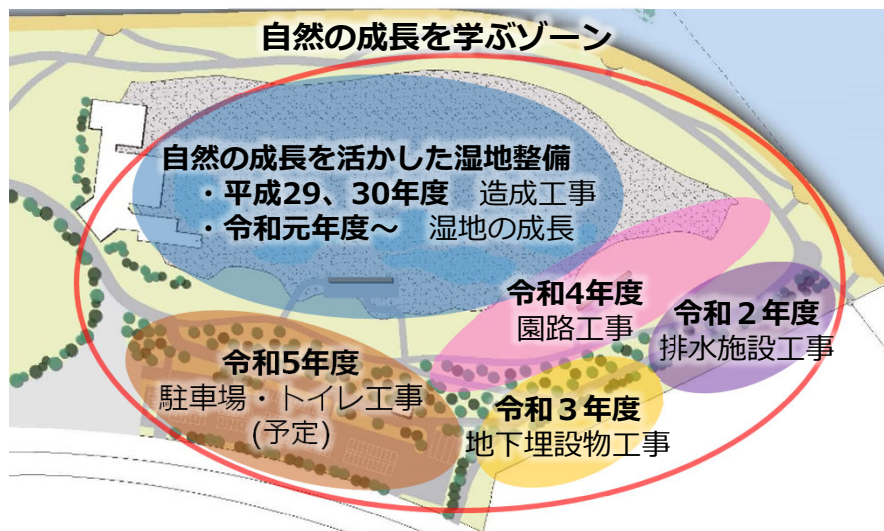
③ みんなで関わる仕組みづくり

- 魅力的な公園をつくり、育てていくため、市民やNPO、企業等の多様な主体と連携し、持続可能な管理運営の仕組みをつくる。

4. 3つの取組の実施状況

(1) 段階的な整備・供用の実施状況

- 平成29年度より「自然の成長を学ぶゾーン」から整備に着手している。



- 湿地については、自然の力を活かしながら整備を行っている。



造成後の公園（平成31年3月）



造成した窪地に雨水が溜まって創出された湿地（平成31年3月）



緑あふれる公園（令和4年8月）



鳥や風が運んだ植物や、飛来した昆虫などが生育する湿地（令和4年8月）

(2) 自然の成長を活かす管理手法の導入の実施状況

- 令和元年度より、公園の管理・運営等について有識者から助言を得るために「アイランドシティはばたき公園管理・運営等アドバイザー会議」を設置している。

氏名	所属	専門
桑江 朝比呂	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究グループ長	干潟生物、鳥類
内田 泰三	九州産業大学 建築都市工学部 教授	植物生態、緑化学
岡田 知也	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長	自然再生
中島 淳	福岡県 保健環境研究所 主任研究員	水生生物、環境教育
服部 卓朗	NPO法人 ふくおか湿地保全研究会 理事長	湿地保全、鳥類
林 博徳	九州大学 工学研究院 環境社会部門 准教授	市民との共働、自然再生

○ アドバイザーからの主な意見

・ 鳥類について

湿地に飛来する鳥類については、令和元年度は31種、令和2年度は40種、令和3年度は66種と増加傾向にあるほか、淡水系シギ・チドリ類の当該湿地への依存度は高く、淡水性の湿地や裸地に生息している鳥たちの貴重な拠りどころとなっている。

はばたき公園で確認された主な野鳥



シロチドリ



セイタカシギ



クロツラヘラサギ



渡鳥の飛来状況 (令和3年5月)

・ 水生昆虫について

湿地に生息している水生昆虫については、令和元年度は39種、令和2年度は64種、令和3年度は70種と種数が増加傾向にあるほか、コガタノゲンゴロウ、オモナガコミズムシ等の希少種の生息も確認されており、湿地は良い状態で維持されていると考えられる。

はばたき公園で確認された主な水生昆虫



コガタノゲンゴロウ



オモナガコミズムシ



コオイムシ

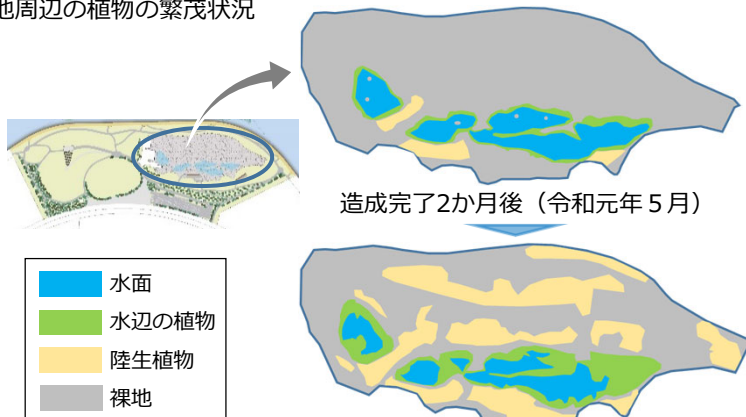


チビマルガムシ

・ 植物について

湿地の水辺に生育する植物は、鳥類、水生昆虫などの生息環境を形成している。一方、水辺の植物が繁茂しすぎると水面が陸地化してしまう。そのため、生物の生息環境を守りつつ、増えすぎた水辺の植物を計画的に除去する必要がある。

湿地周辺の植物の繁茂状況



造成完了2か月後 (令和元年 5月)

造成完了2年5か月後 (令和3年 8月)

水辺の植物の抜き取り状況



アイランドシティはばたき公園の取り組み状況について

(3) みんなで関わる仕組みづくりの実施状況

○ 多様な自然の観察・解説をとおして、アイランドシティはばたき公園への関心と理解を高めることを目的として市民見学会を実施している。

- ・ 令和元年度 12月 8日 20人
2月 1日 33人
- ・ 令和2年度 11月28日 21人
3月27日 30人
- ・ 令和3年度 5月30日 33人 ※
8月 8日 13人 ※
11月 3日 42人
3月12日 33人 ※
- ・ 令和4年度 10月 開催予定 ※

※ オンライン中継により開催



野鳥の観察



昆虫の解説

○ 市民との共働による持続可能な管理運営を目指して、湿地の保全活動を実施している。

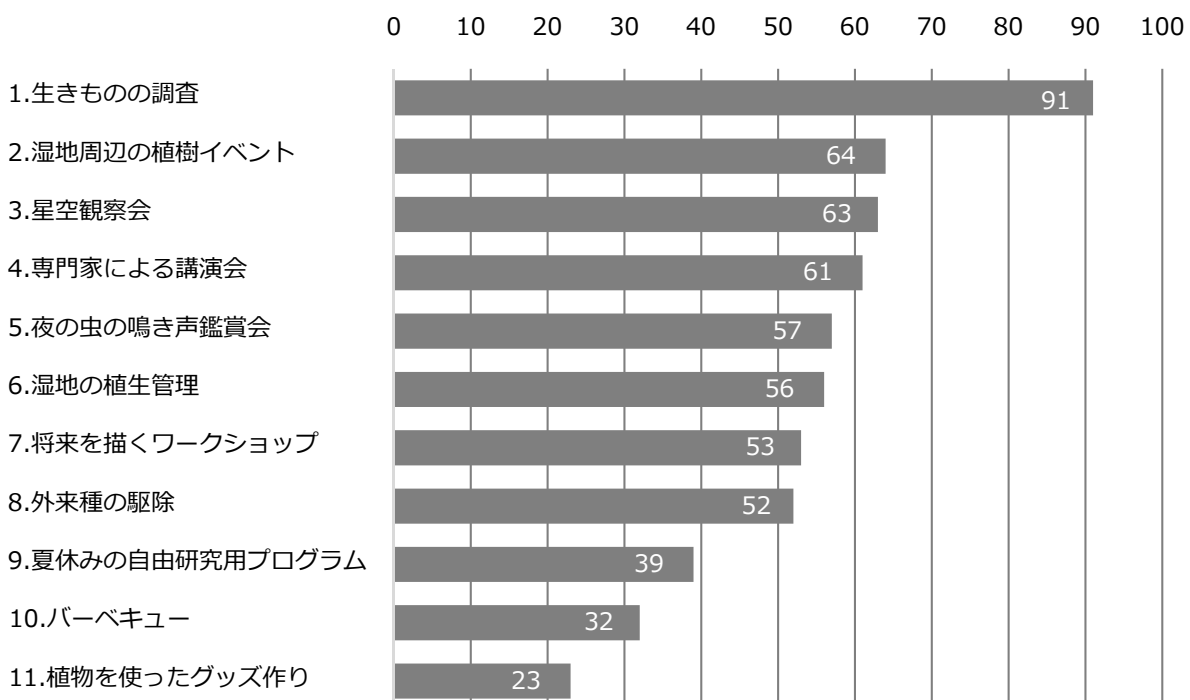
- ・ 令和3年度 10月24日 12人
12月12日 11人
- ・ 令和4年度 5月28日 12人
6月19日 6人
7月17日 5人
以降、全10回開催予定



保全活動

○ 市民見学会、湿地の保全活動への参加者アンケート結果

- ・ 「今後、アイランドシティはばたき公園の湿地ボランティアに関わってみたいか。」
関わってみたい：107人 関わってみたいくない：16人 その他：7人
- ・ 「どのようなイベントに参加してみたいか。」（複数回答可）



5.管理運営方法

- アイランドシティはばたき公園の管理運営に、指定管理者制度の導入を検討する。

指定管理者制度導入のメリット

- ① 湿地の管理・・・専門的知見による管理
専門的な知識や経験を持つ指定管理者が、モニタリングにより状況を把握しながら柔軟に、自然の成長を活かす管理を行うことで、質の高い湿地の管理が期待できる。
- ② イベントなどの企画運営・・・民間事業者のノウハウを活かした企画運営
民間事業者の柔軟な発想を活かした環境学習関連イベントにより、利用者サービスの向上が見込まれる。

6.今後のスケジュール等

- 段階的な整備・供用を進め、湿地を中心とした「自然の成長を学ぶゾーン」については、令和6年度の供用を目指す。
- 令和10年度の全面供用を目指す。

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度以降
整備	造成		設計	施設整備（自然の成長を学ぶゾーン）				部分 供用	施設整備（残りの区域）			全面供用	
管理・ 運営			9月議会報告（取り組み状況）	議案（関係条例の改正案）			指定管理者 公募		議案（指定管理者の指定）	指定管理者による管理			



